

平成24年度研究協議会資料 <<平成23・24年度教育課程研究指定校事業>>

幼稚園・学校名 (園児, 児童生徒数)	みえけんりつひさいのうりんこうとうがつこう 三重県立久居農林高等学校 (697人)
------------------------	--

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：三重県津市久居東鷹跡町105

電話番号：059-273-5031

メールアドレス：narukawa.ma@mxs.mie-c.ed.jp

学校のホームページの URL：http://www.mie-c.ed.jp/ahisai/

【研究成果のポイント】

- 研究対象教科等：農業科「総合実習」「課題研究」
- 研究のキーワード：社会性，基礎的・汎用的能力，農業に関する基礎力，専門知識・技術
- 研究成果のポイント：
「わくわく農林塾」「日本版デュアルシステム」の実践による，社会的・職業的自立に必要な能力や態度の育成についてアンケートを元にデータ化し，効果的な育成のポイントにかかる考察。

【研究の目的， 研究内容】

(1) 研究主題

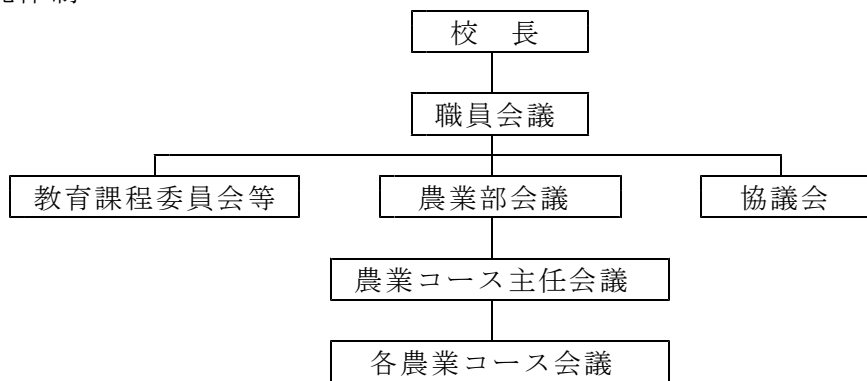
「総合実習」「課題研究」における生徒の表現力，コミュニケーション能力を育成するための指導方法の研究

(2) 研究主題設定の理由

本校では，「総合実習」「課題研究」において，学習内容の確実な定着を図るとともに，他者に教えるという活動を通して生徒の思考力，判断力，表現力や，コミュニケーション能力を育むため，平成22年度から生徒が講師となって地域の幼稚園児，小学生や中学生を対象に授業で学習した内容を教える「わくわく農林塾」を実施している。

本研究では「総合実習」「課題研究」において，「日本版デュアルシステム」「わくわく農林塾」の組織的な指導方法や評価方法の研究を行う。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組の経過

平成23年度	「日本版デュアルシステム」 ・ 7事業所，参加生徒8名で実施 「わくわく農林塾」 ・ 8種類の取組を述べ28回，保幼小中学校を対象に開催 ・ 終了後，アンケートを実施
平成	「日本版デュアルシステム」 ・ 8事業所，参加生徒10名，事前・事後アンケートを実施

24 年 度	「わくわく農林塾」 ・ 8種類 of 取組を述べ 28 回，幼小中学校を対象に開催し，事前・事後アンケートを実施
--------------	---

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

- 「日本版デュアルシステム」の実施
 - ・ 社会で役立つコミュニケーション能力や勤労観，職業観等を育成するための企業連携
- 「わくわく農林塾」による基礎的・汎用的能力，農業に関する基礎力の育成
 - ・ 異なる年齢層に対するコミュニケーションのとり方に関する事前指導
 - ・ 分かりやすく伝える方法の検討
 - ・ 教えるための知識の再確認
 - ・ 教わる側への配慮，マナーの指導
- 「日本版デュアルシステム」「わくわく農林塾」の成果及び課題の検証
 - ・ アンケートによる参加生徒の意識の変化と検証

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果と課題

- 研究成果
 - ・ 事前，事後アンケートを実施することで，生徒が身に付けた「基礎的・汎用的能力」及び「農業に関する基礎力」に関する検証を行うことができた。
 - ・ 「日本版デュアルシステム」では，コミュニケーション能力を中心とした社会的基礎力やキャリアプランニング能力の向上が確認できた。また，参加生徒が感じた成果と課題を整理し，実施報告会を行うことにより，全農業学科生徒が今後身に付けていくべき力について共有することができた。
 - ・ 「わくわく農林塾」では，自分（高校生）と年齢の異なった児童生徒を教えることにより，普段の学習に対して受け身がちであった生徒が，積極的に専門知識や技術を身に付けることができた。また，コミュニケーション能力を中心とした社会人基礎力，キャリアプランニング能力の向上が見られた。
- 課題
 - ・ 「日本版デュアルシステム」については，アンケート結果の分析を元に個々の生徒の能力を伸ばす具体的な指導システムづくりを行う必要がある。
 - ・ 「わくわく農林塾」については，生徒の目的意識を高め，社会的・農業に関する基礎力の育成をさらに充実する必要がある。そのためには相手のニーズをつかんで実施目標を明確に設定することが必要である。今後児童生徒だけでなく，社会人を対象とすることで，より高度な内容の展開を図ることも必要である。
 - ・ 取組を行う上で基礎となる「社会性」と「専門知識・技術」を高めるためには，学校現場での教育のさらなる充実が必要不可欠である。

(2) 研究成果の意義等

- ・ 生徒の社会的基礎力を育成し，生徒の「専門知識・技術」の定着と，課題発見が行える効果的なシステムづくりのポイントを明らかにすることで，各校への応用が可能となる。

(3) 指定期間終了後の取組

- ・ 「日本版デュアルシステム」及び「わくわく農林塾」を継続的に実施し，また，アンケートの改善と分析方法の確立を行い，生徒の様々な能力を伸ばすことができるシステムを探っていきたい。さらに，農業高校生が地域へ貢献することにより，農業高校の存在意義を高めていきたい。